

総務文教常任委員会

ふるさと納税急増により予算増額 返礼品はコメなどが好調

9月定例会の総務文教常任委員会では、令和元年度補正予算や平成30年度の決算について審査されました。補正予算ではふるさと納税の急増による予算の増額などについて議論されています。また、橋梁架け替え（大瀬蔵野橋）の基準改正による予算増額に伴う「辺地に係る公共施設の総合整備計画」の変更についても議論が集中しました。

主な内容	ふるさと納税ふるさと便事業費	1億3,862万円
	ふるさと納税の増加に伴う返礼品の経費	
	生徒派遣費補助金	300万円
	中学生の部活動全国大会出場等に伴う派遣費補助	
	2020 仙北市スポーツ文化交流事業費	217万円
	車いすバスケットボールタイ代表選手団の合宿誘致事業費	

【辺地に係る公共施設の総合整備計画の変更（大瀬蔵野橋架け替え）】を議論

質問 計画変更により当初3.5億円程度の予算が8億円となるが、なぜそうなるのか。

答弁 以前から計画されていた、角館下延地区の大瀬蔵野橋の架け替えは、当初現状で架け替えることとしていたが、熊本地震の影響から、国の技術基準がより強靱なものへ改定となり、計画を大きく変更せざるを得なくなった。現在地より40m程下流に移動し、新たな取付道路も設置するため予算は大幅増となる。辺地対策債を活用するため、市の負担は事業費の20%となる。

質問 財政難の折この事業にこれ程の予算をかける必要があるのか。費用対効果も疑問だが。

答弁 橋梁長寿命化計画によると判定は4段階中3となっており危険度も高く、市内橋梁の中でも速やかに事業を実施する必要がある。辺地対策債は最も有利な財源だが、令和2年度までの時限立法であるため早い着手が求められる。交通量は少なく費用対効果は図れないが、切欠田、大瀬蔵野集落は、冬期間八割方面の道路が封鎖されるため、橋がないと孤立する。橋の重要性は地域住民にとって非常に大きい。



■老朽化が進む狭い大瀬蔵野橋

【反対討論】

辺地対策債は有利ではあるが20%は市の負担だ。新橋の位置についてより検討するべきである。費用対効果を考えても財政難の中納得できない。

◇採決結果

賛成 2

反対 3

⇒

委員会否決

※なお、その後の本会議では、賛成 11 反対 6 で可決されています。

補正予算の主な質疑

ここが知りたい 議論のポイント

ふるさと納税大幅増加 状況はいかに

質問 ふるさと納税が大幅に増え、積立金も2億円増額することだが、この要因や今後について伺う。

答弁 現在10のふるさと納税サ

イトを活用しているが、今後は13に増える見通しである。返礼品で一番需要があるのは新米で、全体の80%程度となっており寄付増加の要因の1つとなっている。樺細工などの特産品等についても今後力を入れたい。

質問 ふるさと納税サイトのクチコミ欄に、寄付者から市の対応が遅いとするクレームがあった。速やかな対応を求める。

答弁 クレームについては既に把握しメールで謝罪している。例年8月の寄付申込数は800

（900件程度だったが、今年6、550件の申込を頂いている。先月も4、300件と急増している状況が続いている。そのため、現在は課内職員総出で対応にあたっており、迅速な事務処理に努めている。事務処理が速い自治体は業者委託している場合も多いが、仮にそうした場合、手数料負担が発生するため、寄付を有効活用するためにも、まずは職員上げて対応したいと考えている。

市民福祉常任委員会

10月より幼児教育・保育料が無償化に

9月定例会の市民福祉常任委員会では、令和元年度一般会計補正予算や平成30年度決算について審査されました。10月からは幼児教育保育の無償化が始まり、副食費も助成されることとなります。

主な内容	児童扶養手当給付費	3,371万円
	制度改正に伴い支給月数の増加に係る給付費の追加	
	認可保育園等管理費	800万円
	幼児教育保育無償化に伴うシステム改修委託料等の追加	
教育・保育施設給付費	2,731万円	
幼児教育保育無償化に伴う施設等利用給付費等の追加		
生活保護事務費	409万円	
生活保護システム改修等に係る委託料の追加		

【平成30年度病院事業会計決算】を認定 厳しい病院経営を議論

平成30年度病院事業会計決算審査が行われ、市民福祉常任委員会では厳しい病院経営の一因である、メンタルヘルス病棟の方向性等について議論されました。

質問 患者数は全体的に減っているが、一日一人当たりの診療単価が増加している要因は何か。

答弁 診療の内容によるが、手術やリハビリなどの提供が挙げられる。田沢湖病院では、平成30年度から入院時の療養環境課加算（1日250円）の届出をしたことも含まれる。また、両病院で医療安全・感染症対策等、情報提供・情報交換することで収益増につながる取り組みを進めている。

平成30年度 市立病院事業決算 単位：千円

	角館病院	田沢湖病院	合計
医業収益	3,075,760	642,496	3,718,256
医業費用	3,951,757	856,361	4,808,118
医業利益	-875,997	-213,865	-1,089,862
医業外収益	614,828	251,092	865,920
医業外費用	127,908	36,983	164,891
経常利益	-389,077	244	-388,833
特別利益	26,622	0	26,622
特別損失	699,474	0	699,474
純損益	-1,061,929	244	-1,061,685

ここが知りたい 議論のポイント

補正予算の主な質疑

児童扶養手当給付費について

質問 児童扶養手当は何を基準とするのか。

答弁 保護者の所得から扶養控除、社会保険料控除などを控除した後の金額で決まる。

質問 以前は年3回の支給だったことにより、子育てしている方は大変であったが今

後はどうか。

答弁 年金は偶数月支給であるが、今度は児童扶養手当を2カ月に1回、奇数月に支給することで生活の一助になるのではと考える。

教育・保育施設給付費について

質問 保育料が無償となるが、1人につきどの程度国から拠出はされることになるのか。

答弁 国の補助金・交付金は、何歳児の子供がどれくらい規模の園に預けたのかによ

り、1人ずつの単価が決まる。

この制度改正により、保育料を（国1/2、県1/4、市1/4）の割合で負担することにより施設に支払う。

質問 保育料は広域入所の方にも無償になるのか。

答弁 広域入所でも仙北市の3歳以上は無償になる。ただし、副食費は仙北市の子供であれば、大仙市の保育園に入っても仙北市で負担するため無償であるが、逆に大仙市の子供が仙北市の保育園に入った場合は有償である。

産業建設常任委員会

冬期交通対策費(市道等の除排雪費)が9月補正予算で増額なる

9月定例会の産業建設常任委員会では主に令和元年度一般会計補正予算や集落排水事業特別会計補正予算及び平成30年度水道・温泉事業決算を始めとした各決算が審査されました。

主な内容	花葉館施設整備事業費	227万円
	温泉棟の受水槽の修繕費用	
	冬期交通対策費	3億2,791万円
	市道等の除排雪費の追加(当初予算 2,982万円)	
	辺地対策事業費	3億4,985万円
	大瀬蔵野橋整備工事の令和2年度分前倒し事業費	
生保内公園施設維持管理費	364万円	
遊具及びステージの屋根と壁の撤去費		
集落排水事業特別会計補正予算	660万円	
松木内クリーンセンター改築工事における汚泥処理費の追加		

ここが知りたい 議論のポイント

補正予算の主な質疑

3セク施設今後のあり方は
質問 花葉館の施設修繕は当初予算でもエアコン取り換えて1,781万円が計上されている。昨年度も定例会の都度、3セク施設の修繕等が補正予算に計上されたが、いくら観光施設、保健施設だからといって全ての修繕費は出せなくなる。その場凌ぎではなく、もつと将来を見据えた議論を議会と交わしていくことも必要ではないか。
答弁 3セク施設は年次で整備事業を計画しているが、花葉館は施設規模が大きく、経年劣化も計画以上に進んでおり、修繕箇所が次から次とでてきている。今後は、人口もほとんど減少していくので、身の丈に合った施設に縮小していくことなどを含めて、3セク全体の将来的な検討が必要と考えている。

遊具撤去後のプランは

質問 老朽化により生保内公園の遊具や屋外ステージの屋根を撤去することだが、撤去後のプランは。
答弁 危険度の高い遊具等は随時撤去している。同じ場所にまた同じような遊具を設置するかは、利用状況などを考慮して検討している。今後の子供たちの減少などを考慮すると、あちこちに設置するよりも集合的な子供の遊び場を検討していくことも必要かと考えている。

適正な工事計画だったのか
質問 西木クリーンセンター改築工事における汚泥処理費の追加補正だが、改築工事を計画する段階で汚泥処理が発生することに気がつかなかったのか。
答弁 改築工事の計画段階では、既存の施設に汚泥が滞留していることは設備の構造上、内部を確認できなかった。また、予想もできなかった状況をご理解いただきたい。この経験は次の工事等に活かしていかなければならない。

平成30年度公営企業会計 決算認定の主な質疑

質問 水道事業の赤字要因は何か。
答弁 一般会計からの繰入金の減額と西木地区簡易水道の統合による経営悪化が赤字要因である。来年度、水道事業の新たな基本計画の策定を予定しており、今後の更新需要、給水人口を考慮して水道料金を算定する。水道料金の改定により収支の安定も図っていきたい。

平成30年度特別会計及び公営企業会計 決算認定される

単位：千円

会計別	事業名	歳入 (収入)	歳出 (支出)	歳入歳出 差引額	収入 未済額
特別会計	下水道事業	752,374	752,197	177	6,921
	集落排水事業	457,362	457,292	70	1,144
	浄化槽事業	100,121	100,030	91	530
企業会計	温泉事業	69,170	66,526	2,644	8,773
	水道事業	508,973	566,665	-57,692	22,928